



▲軍艦島資料館

合わせ窓口については、観光政策課に一本化したい。さらに、有料化についても、今後の集客数や費用対効果を試算し、検討していきたい。

ぎりぎりまで行うが、建設場所については、早期に結論を出す必要がある。で、しかるべき時期に判断したい。
また、交流人口の拡大につながるMICE機能の充実、長崎市にとって重要であると考えている。本年3月に取得した交流拠点施設用地については、MICEに関わらず最善の活用方を検討中であり、今年度内に活用方針案を示したい。

軍艦島資料館のあり方

問 世界遺産効果で利用者が増えているが、手狭でバリアフリー化もされていない。運営面を含めた今後の方針を伺いたい。

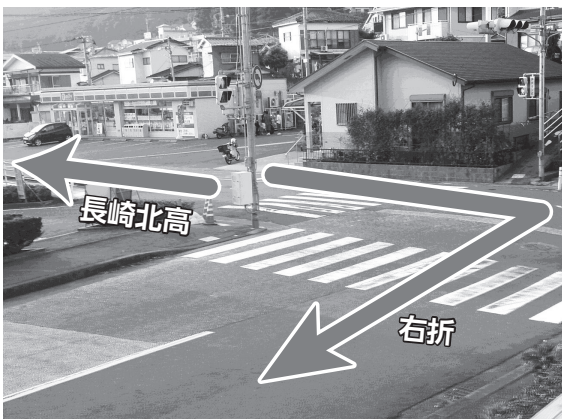
答 世界遺産効果を持続的に野母崎地区へ波及させるため、軍艦島資料館の魅力向上が必要だと考えている。展示の充実や案内人の配置、バリアフリー化への対応としての旧野母崎福祉保健センターへの移転等について、関係機関と協議を進めていきたい。

また、複数の団体が関係していることから、わかりにくくなっている問い

長崎北高前の交通渋滞緩和策

問 通勤通学の時間帯には、式見方面から来る車が右折できず、後続車が連なり、渋滞を招いている。現状、右折帯の設置しか対策はないと思うが、市はどのように考えているのか。

答 この場所は、県道長崎式見港線に市道小江町小江原線が接続するT字型の交差点で、交差点内には、長崎北高の正門入口がある特異な形状となっている。渋滞対策の一つとして、ご提案の右折帯を設置する方法があるが、この場合、学校敷地などの用地確保や学校への進入路の調整などが必要となる。市としては、交通量調査を行うなど、現状を把握したうえで、県や警察、学校などと、交差点改良も含め、何らかの対応ができないか協議していきたい。



▲長崎北高前の交差点

茂木地区の沿岸漁業の将来像

問 茂木漁協では、過去10年間で組合員数、水揚額などが大きく減少しており、非常に厳しい現状となっている。今後の茂木地区の沿岸漁業をどのように考えているのか。

答 茂木地区では、昨年度、茂木漁協、市及び県を構成員とした茂木地区地域水産業再生委員会を組織し、地域の実態に合わせた「浜の活力再生プラン」を策定した。このプランでは、漁業所得の向上を目標として、収入向上・経費削減に取り組むこととしている。今後とも、このプランの具体的な事業が推進できるよう、県や関係団体と連携を図りながら、「もうかる漁業」の推進に取り組んでいく。

公明党

南山手・浪の平地区のまちづくり

問 浪平小学校の跡地活用に係る市の見解及び地元自治会が苦慮している、荒廃した旧ロシア領事館跡地の問題解決に向けた取り組みについて伺いたい。



▲浪平小学校跡地

答 浪平小学校跡地については、地元の皆様で構成する浪の平地区まちづくり推進協議会において、広場などの活用が検討されている。このような意見を含め、地元の皆様の意見を伺いながら、できるだけ早期に活用策を示すことができるよう前向きに検討したい。

また、旧ロシア領事館跡地については、これまでも大使館などに早急な対応を要請してきたが、現状では見通しが立っていない。しかしながら、住民の皆様の安全や財産にかかわる問題であるため、住民の皆様とともに、引き続き要請を行っていきたい。

し尿処理の合理化事業計画

問 し尿処理業務においては、旧市内では、一部の地域を除き、旧長崎衛生公社が、市からの支援を受けながら継続してきた。一方、旧合併地区では、それぞれの業者の企業努力によりサービスが維持されてきた経過がある。業者への代替業務の提供などの具体的な支援も含め、次期合理化事業計画の策定は、どのような方針で進めていくのか。

答 次期合理化事業計画の策定については、市が一般廃棄物処理の統括的な責任を有していることから、旧合併地区を含めた市内全域のし尿等の適正な処理を確保していくという観点のもと、計画策定に向けた具体的な検討を行っていききたい。